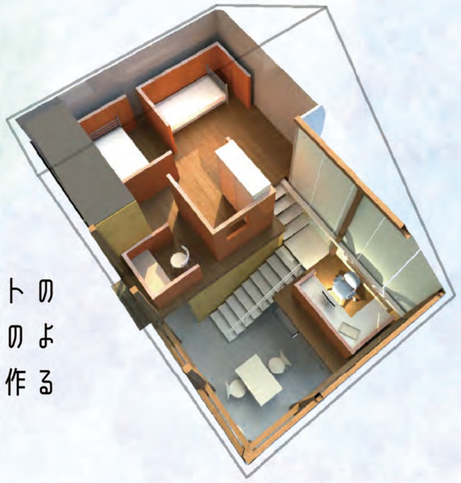
コの時間を大切に

外観　まちに開かれたコモンスペース

内観　連なるようなコの字型

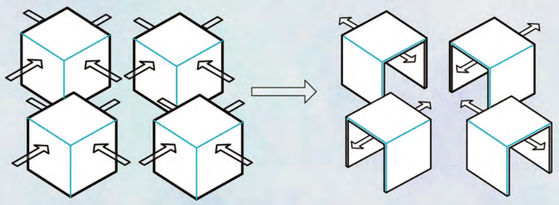
内観　家族の空気を感じる場



コの字型ユニットの集積により漁礁のような住居空間を作る

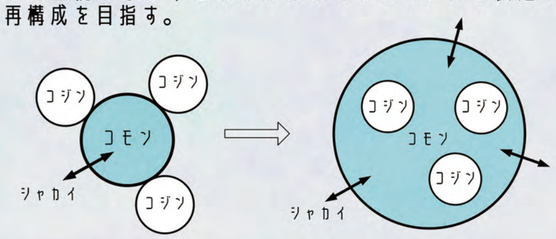
01 都市型住宅の問題点

外の圧力により、内に向きすぎた指向は過度に守られた「住む」という形を生み出した。安全なシェルターのように思われたその生活は、家族の持ち込む外の苦痛をため込む場所となり、それらは閉じた住まいにたまり続け、内の快適さが損なわれている。



02 コジン・コモン・シャカイ

住宅の内部を個人の場所、家族の場所という2つの場の重なりとして考える。家の外部である社会と、個人の空間の両者の間に家族の場所を挿入し、液体のようにそういった空間が家の中をめぐることによって、内の快適さの再構成を目指す。

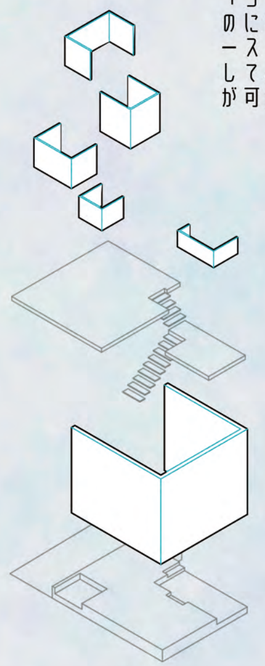


03 漁礁的建築空間

目指す空間の形は、魚のすまい、「漁礁」である。岩場にできた魚たちの憩いの場は、完全に閉じているわけではないものの、流れのはやい外海から身を隠し、緩やかな流れに身を任せることができる。こうした隙間を住宅の内部に生み出す。

04 コの字型の導入

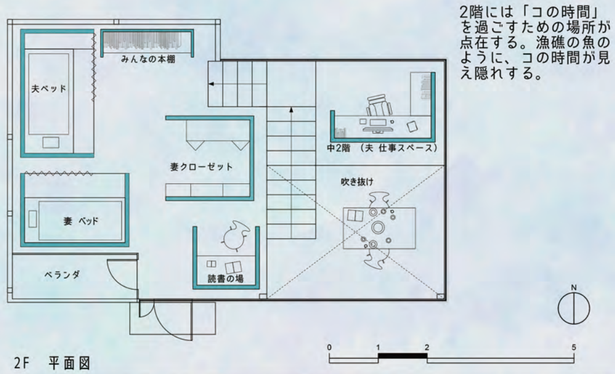
狭い敷地に、漁礁的建築空間を作り上げる方法としてコの字型を利用する。完全に閉じることなく、一人の空間として機能するユニットを住宅内部に点在させ、「コの時間」が完全に閉じたものにならず、家族のコモンスペースという媒質に浮かぶ空間として、社会との無理のない接続が可能となる。



コの字型の内部は個人の空間。仕事をする場所、寝る場所、読書をする場所。

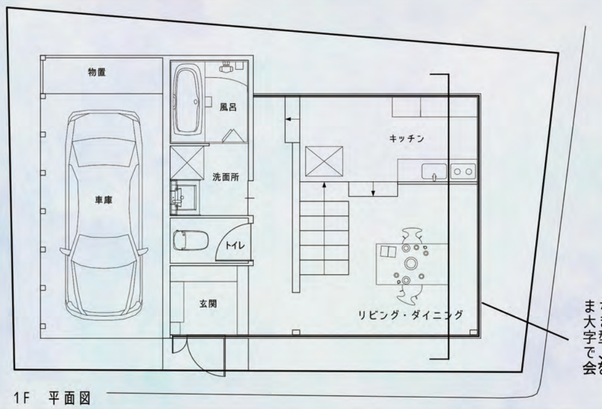
一日の中で過ごす「コの時間」の目的に応じ、滞在する場所が移り変わっていく。

一番外側の大きなコの字型はガラスでできており、細かな「コの時間」を緩やかに包みながら「コ」と「シャカイ」をつなげる。



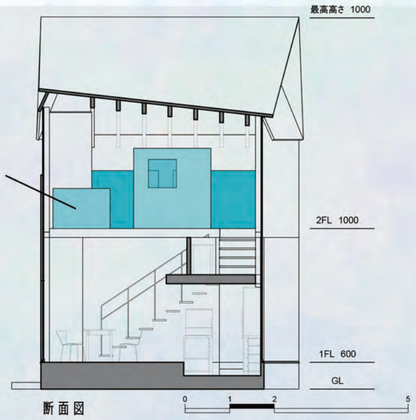
2F　平面図

2階には「コの時間」を過ごすための場所が点在する。漁礁の魚のように、コの時間が見え隠れする。



1F　平面図

まちに面する西側に大きなガラスのコの字型を設けることで、コモンスペースと社会を緩やかに接続する。



それぞれの高さは目的に応じて設定。プライベートな空間になるにつれて壁が高くなる。

断面図